



SAITAMA ROUSAI HOSPITAL KANGOHU NEWS
Nurse Letter

2012 **11**

院内研修特集

本部研修・学会伝達研修

大学病院における HIV/AIDS の現況

手術室 鎌倉享子

高田清武教授を迎えて、「針刺し事故・感染対策について」をサブテーマに全体研修が開催されました。県内13病院がHIV患者対応の問題点として「職務上のHIV感染対策」「知識不足」「患者との接し方」「スタッフの啓蒙不足」「プライバシーの保護対策」をあげています。HIVは偏見が多く、差別される疾患でもあります。日本は先進国の中で唯一感染者が増加している国であるといわれています。HIVへの理解と感染予防への啓蒙は大切なことだと思いました。

HIVの感染経路は血液・精液・膣分泌液・母乳です。感染防止のためにはスタンダードプレコーションを確実に実施することが重要です。スタンダードプレコーションの重要性は「感染対策研修会」の中で感染管理認定看護師の菅原補佐が述べていましたが、基本を守る事が、自分も患者も、大切な人も守る事になると学びました。

手術室 小野しのぶ

日本看護学会（老年看護）の「退院支援に向けての取り組みを考える」の発表では、当院でも入院時に退院支援スクリーニングが行われ、早期から退院支援に取り組みられています。患者と家族が抱えている問題、予想される問題について、個々に解決法を探し、必要な対策を講じるのが退院調整です。地域の保健・医療・福祉サービスとも連携しながら、患者と家族をサポートしていく必要を改めて感じました。

日本看護学会（看護総合）の発表では、『ケアはどんな場合も「他者への関心」から始まり、支える、支えられる関係をつくり、中身をもたらし象(かたち)となる。』という言葉が看護の基本だと感じました。自分が直接責任を負う人々への関心だけではなく、同様の問題状況にある人々への関心も育むことが必要です。このような関心のもち方、視野の広がり、目の前の患者の問題状況を理解したり、解決策を探る上でも役立つといわれています。

「職場におけるセクハラ・パワハラ」

ICU 石田里美

宮内院長代理を講師にセクハラ・パワハラの院内研修が実施されました。職場における「セクハラ」については、男女雇用機会均等法第11条で、「職場において行われる性的な言動に対するその雇用する労働者の対応により当該労働者がその労働条件につき不利益を受け、又は当該性的な言動により当該労働者の就業環境が害されること」と規定されています。パワハラとは、「パワー・ハラスメント（power harassment）」の略で、職務権限（職務上の地位や立場）を使った嫌がらせのことを言い、セクハラもパワハラの一つの形態とされています。当院にもセクハラ相談窓口があり、適切に対応するための体制が整備されています。

思わぬことがセクハラになったりします。もう一度、セクハラ・パワハラ概念を勉強しましょう。ちなみに「イケメン」や「〇〇男子」などの表現も男性へのセクハラになります。

最新のニュースから 毎日新聞より

糖尿病治療薬メトホルミンが、悪性脳腫瘍の再発原因とされる「がん幹細胞」を「再発しないがん細胞」に変えるメカニズムを山形大医学部と国立がん研究センターの共同研究チーム（代表・北中千史山形大教授）が初めて実証した。乳がんや肺がんの治療にも応用できる可能性があるという。

既承認薬であるメトホルミンのがん治療への応用は、新薬開発に比べ、時間を大幅に短縮できる。

病棟トピックス ～北4病棟～

産科チームでは助産外来を開設し、正常妊婦の検診を助産師が実施しています。もちろんエコー検査も行い、胎児の発育状況を確認したり、3D画像にもチャレンジしています。助産外来を愛媛県で一番初めに開設したのは当院で、現在も他の近隣施設では開設されていません。妊婦一人ひとりのニーズに応えられるよう、ゆったりと時間を取って検診させていただいています。多くの妊婦さんが助産外来を受診してもらえるように、これからも頑張ります。

ベビーの3D画像!!



北4病棟には入退院を繰り返しながら、化学療法を継続している患者様が10名前後います。抗癌剤の治療効果がなくなり、他の治療を迫られる患者様もいます。そんな時、婦人科チームスタッフは患者様が自分の人生を自分で選択できるように、寄り添って支える努力をしています。患者様のQOLを考えれば、ギアチェンジの時期の対応に苦慮することもあります。私たちが「昭和が青春」チームメンバーは、芋炊きや忘年会の参加をひそかに楽しみつつ、毎日頑張っています。